

# プロフェッショナルたちの挑戦 サカナにやさしい

## 水辺の未来

第17回 中島淳志さん

浦 壮一郎◎写真と文  
Photo & Text by Souichirou Ura

両毛漁業協同組合・組合長の中島淳志さん。大学卒業後に桐生市に帰郷。そのおよそ2年後、アパレル関係の仕事に就きながらも両毛漁協の組合員に。その後は地区の総代として健全な経営を提案し続け、8年前の2010年、38歳の若さで組合長に就任した。C&R区間の設置や親魚放流の導入、そしてカワウ対策などさまざまな問題に取り組み、成果を上げてきた。漁協とその活動を一般市民に認知させる試みにも取り組んでいる



2010年、当時38歳という若さで漁協の組合長に就任した中島淳志さん。群馬県の桐生市に事務所を構え、渡良瀬川とその支流である桐生川を管轄する両毛漁業協同組合は、中島さんの主導により次々と新しい試みに挑戦している。釣り人の認知度、期待感も大きい同漁協の取り組み、中島組合長が見る将来像について話を聞いた。

### 新しい試みに挑戦する 両毛漁業協同組合

全国の内水面漁協は水産資源激減に伴い、組合員の減少や高齢化によって縮小傾向にあるなかで、健全な漁協経営を目指しさまざまな取り組みを行なう革新的な漁協もある。利根川水系の渡良瀬川とその支流である桐生川の本支流を管轄する両毛漁業協同組合では、2010年に当時38歳という歴代最年少の組合長が誕生。中島淳志・新組合長就任の直後からC&R区間や特別解禁日の導入、親魚放流やカワウ対策などの試みに取り組み、8年が経過した。現在、その活動は実を結びつつある。

両毛漁協は既存の釣り人に対してだけでなく、将来を担う子どもたちに対する啓蒙にも積極的だ。たとえば群馬県でも「川は危ないので近づいてはいけません」と子どもに教育する風潮がある。

あり、そんな教育を受けてきた人たちがすでに親の世代になっている。川を知らない子どもが大人になり「釣りでもしてみようか」と考えた時、彼らは川に対する知識がないまま釣りを始めようとする。当然漁協という存在も知らず、釣りをする場合に遊漁証が必要であることも知らないかもしれない。それを逆手に、知らなかったふりをした無券のまま釣りをする輩も出てきたりするから厄介だ。

ところが子ども頃から漁協の存在を知っていたら、川にも漁協があり、遊漁規則があることを認知してもらえらる。中島さんはそう考え、新たな取り組みを思案中だ。

「たとえばですが、川（内水面）にも漁協が存在することを義務教育で教えてもらう。すると鑑札についても「知

よう」

これはまさに妙案だ。ただ、何も尽力していない旧来型の漁協がそのアイデアを出したとしても話は前に進まないだろう。ところが両毛漁協では中島組合長になって以降、子どもたちに向けた釣り教室、稚魚放流体験、発眼卵

### カワウ被害を把握し、 関係機関との連携を図る

中島組合長はいち早くカワウ対策にも取り組んできた。といってもただ闇雲に駆除するのではなく、生態や行動範囲の把握、コロニー（集団繁殖地）

への対策、ドローンによる追い払いなど、その手法はさまざま。中島さんは言う。

「取り組み始めた当初から毎朝欠かさず、暗いうちからどこにいるのか見に行っていました。それでも実態把握は難しい。難しいからといって何もしないわけにはいけませんので、カワウの採餌場所やねぐら、コロニーの特定などの状況把握に努めました。カワウ対策は単なる駆除ではなく学術的に個体管理してゆくことが重要なんです」

その後は行政や民間と協働体制を確立し、現在に至る。

「シャープシューティング（注1）による捕獲やドローンでの追い払いによって渡良瀬川のカワウは半減しました。ここまでの成果は漁協が自ら活動してきたからだだと自負しています。」



小学生など子どもたちを対象に実施しているヤマメの稚魚放流体験。このほか釣り教室や環境学習など、さまざまなイベントを積極的に実施している。このような漁協は全国的にも珍しい

何もせずに「何とかしてくれ！」と言っているだけでは誰も動いてくれません。もちろんカワウ対策は漁協の仕事ではないし、その手間や予算を使いたくはない。ただ、行政に対策を要求するならば漁協も最低限のことはやるべきなんです」

両毛漁協のカワウ対策は現在、群馬県や水産庁、環境省、シャープシューティングを実施する民間、そして研究機関である大学など、横の繋がりによって実現している。そのうちの状況把握と追い払いなどを中島さんが直接ドローンを飛ばすなどして実施している。

「カワウは追い払ったとしても違う場

利根川支流として最大の流域面積を誇る渡良瀬川。上流部は栃木県の県境まで、下流部は桐生川合流点までが両毛漁協の管轄となる。また桐生川はその本支流と梅田湖を管轄としている

※注1：シャープシューティングは発砲音が小さい空気銃が小さい空気銃を使用し、適正な個体数調整を実施する取り組み



## 両毛漁協活動リスト

- 河川工事や浚渫工事、堰やダム、帯工の改修時に漁協の意見を提案し、改修内容に反映させる
- 砂防堰を建設する際、国交省と工事業者と一緒にイワナの人口産卵所の造成実施
- ヤマメの親魚放流
- ヤマメ発眼卵配布と虫ごでハッチェリーボックス作りと発眼卵放流体験
- ヤマメの稚魚放流体験
- 川虫取りとピストン釣り教室
- 釣り教室各種
- 群馬県立桐生工業高等学校 環境学習／今年度も継続
- 渡良瀬川クリーン運動における河川清掃
- 梅田湖特別解禁日
- 梅田湖ワカサギ釣り大会
- 水産多面的機能発揮対策事業／平成29年まで計11回実施
- 「Let's go fishing!」フライ、ルアー、エサ釣り全てを体験してもらう釣り教室を毎年実施（一昨年より日本釣振興会群馬県支部で主催。両毛漁業協同組合が主管で実施）
- スーパーサイエンスハイスクール指定校の群馬県立桐生高等学校の生徒たちによるヤマメの放流体験学習を平成20年より毎年実施
- カワウのコロニーにて繁殖抑制として巣の周りにテープ張りを実施。平成27年にドローンを用いた繁殖抑制対策を実施し、国の実証試験の成功例となり、現在も毎年実施
- 水産庁「先端技術を活用したカワウ等被害対策開発事業」にてドローンでのカワウの追い払い実証試験地として実施
- 渡良瀬川C&R区域で河川での水中清掃（日本釣振興会群馬県支部とボランティアダイバーの協力により実施）
- 桐生市と群馬大学の産官民学連携事業の子ども自然塾の行事にてヤマメの稚魚放流体験学習、子ども釣り教室を毎年実施
- 地元のみ市民活動団体主催、環境省「平成27年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業（ESD事業）」で連携し、ヤマメを題材にした地域の川・生き物・自然環境・歴史などを構成した教育プログラム作りを行い、小学校にて「ヤマメの授業」を実施
- 学校依頼による環境学習の出張授業
- 国土交通省渡良瀬川河川事務所、各関係機関、地元有志団体と連携し、渡良瀬川と桐生川にて「水辺の楽校」を毎年2回開校（当ブースは、遊漁のモラルとマナーや地域に生息する魚のパネル展示、ピストン釣り、フライフィッシング体験、フライタイング体験、お魚判定所など）

間においてC&R区間を設定しており、ここに放流される成魚は釣期も禁漁後も原則的に残るため親魚放流と同様の効果が見込める。結果、本支流のかなり広い区間において親魚放流を実施していることになるわけだ。すでに野性味溢れる美形のヤマメが釣れている場所もあり、今後はより魅力ある河川に成長してゆくことが期待される。中島さんは付け加えた。

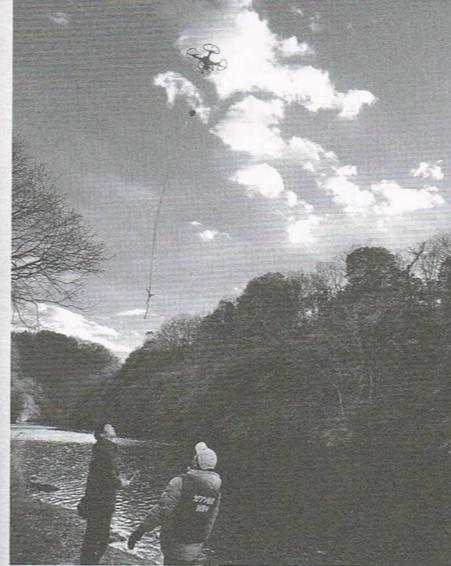
「護岸などの改修工事が行なわれる際、実際に工事に立ち会って意見を述べさせてもらっています。いくら放流手法が素晴らしいとしても河川環境が悪ければ魚は増えません。かつて国交省などが工事をやる際、漁協は対立するだけの存在でしたが、こちらも河川環境や工法について勉強しましたから、そのつど意見を述べるようにしていたんです。近年は河川改修や堰堤の魚道を改修する工事の際、計画段階から提案させてもらっています」



両毛漁協では河川工事の際にもさまざまな提案を行なう。写真は国交省大間々砂防事務所および工事業者と協力して実施したイワナ人工産卵床造成の様子。中島組合長は旧来の漁協のようにただ苦情を叫ぶのではなく、蓄積された知識をもとに緻密な提案を行なう。その姿勢が行政を動かしたといえる

管轄水域の河川環境を好転させ、魅力ある釣り場になりつつあるのは確かだろう。あわせて今後の展開についても期待したい。

所に飛んで行くだけです。ですから漁場を管理するうえでカワウから守りたい場所、追い払いに適した場所、カワウをあえて追い払わない場所を設定し、しっかりとした計画を立てることが重要になります。渡良瀬川では高津戸ダムがカワウのコロニーになっていますが、これ以上巣が広がらないようドローンを使って繁殖抑制のテープを張っています。こうした活動でカワウは半減したわけですが、並行して河床環境を改善させることも大切です。大きな石や浮き石などが豊富で変化に富んだ流れがあれば、それは魚の隠れ場所にもなるし産卵床が増えれば自然再生産も期待できる。自然再生産により生まれた魚は生命力が強いといわれ、ここでさらに親魚放流です。カワウにも負けない強い魚に育ってくれば、



ドローンを活用しカワウのコロニーにて繁殖抑制のテープ張りを実施している。もちろんドローンは釣り場での追い払いでも活躍しており、渡良瀬川におけるカワウ飛来数は半減したという

「期待もあるんです」という期待もあるんです。管轄する渡良瀬川の桐生地区にはC&R区間が設定されていることでも知られる。実はこれもカワウ対策と無関係ではない。

**親魚放流と同様の効果が期待できるC&R区間**

両毛漁協では2013年から渡良瀬川、山田川、桐生川においてヤマメ、イワナの親魚を放流してきた。親魚放流は禁漁期間に入ってから成魚を放流し川に残存している個体とともに産卵させる増殖手法。親魚みずから産卵に適した河床を捜して産卵するためふ化率が高いとされ、これまで主体となっていた稚魚放流よりも歩留まりがよいとされる。

ただ、注目されているからといってトレンド的に参入しようとする発想に中島さんは苦言を呈する。「親魚放流がいいからと単純に飛びつくのはどうかと思います。重要なことは研

究者が発表する親魚放流の効果ではなく、漁協が運営してゆく体制を整え、知識を蓄積することです。親魚を放流すれば勝手に産卵してくれるから楽だとか、稚魚放流がダメだということなら止めます、ではなく、漁協として何が効果的なのかを検討すべきなんです。たとえば適した放流場所はどこなのか、放流したい時期と養魚場の飼育状況とタイミングが合うのか……など、さまざまな検討や調整を行なったうえで、どのような漁場にしたいのかをそれぞれの漁協で考えないといけません。密漁を防ぐ意味では放流後の監視、周辺住民への周知も重要になってきます」

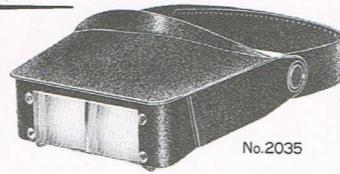
両毛漁協は昨年も、日本釣振興会群馬支部と共同で親魚放流を行なった。また渡良瀬川の相川橋上下流の一部区

係ではなく、また近年注目されている親魚放流とも関係している。すべての取り組みは繋がっているといえそうである。

## 大物ねらいの明日 準備は万全でしょうか!

釣具の点検には是非ピークヘッドルーペをご利用下さい。両手が自由に使い、倍率も2.2×、3.3×と変倍できます。又、メガネをかけたままでも使用可能です。

**PEAK**



No.2035

東海産業株式会社 〒113-0034 文京区湯島3-16-13 ☎(3834)5711 ●カタログ切手650円

創業 昭和八年  
江戸前の釣り

## 大塚 関釣具店

〒112-0011 東京都文京区千石2-1-3  
TEL/FAX 03(3941)9622

営業日 水曜日～土曜日(臨時休業あり)  
営業時間 AM10:00～PM6:00

## お待たせ致しました!

「日本一休みの多い釣り道具屋」として、毎週土曜日以外の営業により皆様には長い間ご迷惑をお掛けして参りました事、改めて深くお詫言申し上げます。

来月4月からは【水曜日から土曜日の週4日間営業】

に変更させていただきます。

\* 4日間営業でも、北京/上海たなご釣行、江戸川鮎釣り大会、孫娘の東京ディスプレイランド付き添い等で臨時休業を戴くこともございますが、お許し願います。

今後とも、従来に倍してのご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。